



アバン 仙台 Jr. Youth

U14・15 山形遠征 菜の花杯 優勝

2016年6月号



5月4日・5日に山形県三川町で行われた大会に参加しました。初日は、会場に到着してからの選手の行動について論ずることから活動が始まりました。そのテンションを引きずったまま試合に入り、敗戦からのスタートとなりました。

その後は、徐々に調子を上げ予選を1位通過、2日目のAトーナメントでは優勝。同時に参加したBトーナメントは、勝つためのプレーの選択ができず、2試合とも敗戦し物足りなさの残る結果でした。

しかし、全体として見ればチームとしてタイトルが獲れたことに喜びで2日間を締めくくることができました。

U13 in 安比合宿

U13リーグ経過報告



ついにリーグ戦デビュー

- 第1節 5月7日(土) 庄内へ初のリーグ遠征

アバン 0 VS 4 モンテディオ庄内

- 第2節 5月15日(日)

アバン 0 VS 20 ベガルタ仙台

試合後に体幹強化

初戦から苦しい戦いが続いています。選手たちもコントロール技術、そして走力・強さを高めるべきだと理解しています。これから、じっくり強化していきます。応援を宜しくお願いします。



どんな試合、どの会場でも「場を清める」を疎かにしない。更衣室から使用後のバス、グラウンド内での整理整頓まで、中学生が率先する姿にクラブの活動、選手が習慣とする活動が伝わります。これまで対戦したチーム指導者からも活動について評価いただいています。より良い活動にしていきたいと思います。



岩手県安比高原 ASPA サッカー場で合同合宿に参加してきました。生活テーマは、「時を守り・場を清め・礼を正す」。サッカーのテーマは、「スピード、位置(向き)」に走りを伴ってプレーすることに力を入れました。活動としては、試合と練習、また即席でミニコートをつかって交流試合を繰り返しながら過ごしました。最終日には全日程終了後にメンタル面でも、身体面でも負荷のかかるトレーニングをして初の合宿を終えました。

まだまだ、これから生活面でもサッカーの技術面でも、個人でもチーム全体でも改善する必要があると感じた合宿でした。

選手には、今後の取り組みについてコーチからも強く求めています。文武両道を追及していきます。これからのU13リーグが一年生だけの強化だけでなく、その先にある新人大会で勝ち抜けるチームづくりに向けての活動にもなります。2年生との熾烈なレギュラー争いに食い込み、チームとして「強いチームづくり」をしていきたいと思います。



バンション「チセ・アイボリー」

住所: 岩手県八幡安比高原605-25

TEL: 0195-73-5070

FAX: 0195-73-5163

料理が
美味しい!



U-13 チーム体制紹介

～村上コーチから選手皆さんへ～

U13選手皆さん、保護者の皆さん。白山です。U13リーグがよいよスタートしたわけですが、リーグがスタートする前にチームの体制を決定しました。決定方法は、選手とコーチとで話し合い決定しました。

ただし、その体制に対して、選ばれた選手任せではよくありません。あくまでチームのことを、仲間のことを考えるべきは選手全員であるべきです。それを各選手が理解し、選ばれた選手と共に良いチームで良い活動をしていきましょう。

キャプテン 栗原 蓮くん



リーグがスタートした。ここまで活動してみて、チームとして技術面のレベルは上がっていると思う。でも、もっと意識すればもっとレベルが上がると思うから1人1人が意識して活動していく。そのために、チーム全員で平日や週末の練習に励んでいきます

副キャプテン 菅原 健志郎くん



仲間とコミュニケーションをとり、チームの改善すべき所を言い合えるチームにしたい。今のチームの課題である、「ボールを奪った後のボールの運び方」をチームで改善していきたいです。さらに、細かい、ところまで気を配り、活動をしていきたい。

副キャプテン 佐藤 颯樹くん



まず、自分のことを完璧にできるようにする。そして、人のことまで考えられるようにしたい。みんなのことをしっかりまとめて、いいチームにみんなできていきたい。まずは、みんなで取り組んでいる報告メールやサッカーノートの取り組みの甘さのある活動を真剣に取り組むようにしたいです。

相談役 葛巻 悠くん・鈴木 奏くん



(悠)：皆の相談をよく聞きキャプテンや副キャプテンを支えていきたい。

(奏)：皆の意見をよく聞いて、チームの話し合いにも脱教的にチームに貢献できるようにしていきたい。

以上5名の選手たちを選びました。キャプテンの栗原くんは、アバンのジュニア選手の頃に一緒に遠征したフェスティバルでの印象があるので、よく成長してくれたと思います。よく声を出し、よく動くセンターバックに成長しました。責任感も強いので期待しています。

健志郎くんは、持ち前の明るさとキャラクターのイメージだけでなく、選手として成長の楽しみもある選手です。颯樹くんは、少しずつですが、話の中心となってきています。内にある闘志をプレーで表現してくれる選手。奏くん・悠くんは皆との時間、ピッチでも外側から見てくれている選手なので、他3選手の間や、選手間にも関わって、よい雰囲気全員が活動できるように力をかけてあげてくれることを期待しています。

みなさん、いよいよ夏になりますね。皆さんは夏が好きですか？恐らく好きと答える人が多いと思いますが、村上コーチは夏が一番苦手です。なぜならば・・・暑すぎるから。

夏の炎天下の中でサッカーをするのは好きですか？一生懸命走り通すのも大変ですよ？？加えて熱中症のリスクも伴うので、夏の活動は過ごし方が大変難しいかと思えます。

そこで、皆さんに求めたいのは、これまで以上に集中力を持って練習に取り組むことです。ダラダラとした無駄な時間とならないように、夏休みの平日に90分弱の練習をテクニカル以外にも設ける予定です。そこで集中して中身の濃い夏を過ごしましょう！

これから巻き返す！

さて、連敗続きのMJリーグです(5/24現在)。応援してください。さらには降格圏内にいるため崖っぷちの後期戦をこれから向かえます。

それに向けて7月16日までの中断期間で絶対にやるべきことを以下とします。以下に書くことを今後は強制していきます。これまでの敗因ははっきりしているのに、同じことを繰り返してしまいます。ロングボール1本で失点するシーンは徐々に減ってきてはいますが、**まだまだ不安が残ります。**

「まだまだ不安が残る」・・・この部分こそがチームの問題点です。ロングボールの対処とは、確かにボールを触るという視点では技術的な要素ですが、ほとんど精度と判断力は必要ありません、集中さえすれば起こるミスではありません。つまりは、しょうがないミスではないのです。辛抱して正しく同じことができず、試合の中で怠る場面が目立ちます。それはロングボールに限らず他のプレーにも現われます。また練習中もメニューの中で1つの動作を継続できるのが現状で長くても5分ほどです。選手によっては1・2回で違うものにすり替えてしまします。

2・3年生を担当してからの約3ヶ月、「意識」した動作を継続できない部分をいつ継続できるように変わるのだろうか？と見守ってきました。しかし、もう待つてはいただけません。技術・戦術・体力・精神力すべてを確実に上げない限り、後期の結果も変わりません。待ち受けるのは2部降格です。巻き返しのために改善が必須です。

こんな選手だってアリ！ ～貢献にも色々な仕方がある～

面白い選手を2人紹介します。アバンの選手にも見習ってほしい部分を持った選手たちです。(真似しなくてもいいですが・・・)まずは、右上上段の写真の選手。

「ホナス・グティエレス」。キックオフの笛が鳴ってからとにかくアクセル全開でプレーします。その結果、後半はガス欠となってしまい途中交代を余儀なくされるわけですが、交代されることを惜しまずすべてのプレーに対して最大限の力で挑む姿勢が魅力。

続いて、闘将「ロイ・キーン」ピッチ内外でキレまくり問題の絶えなかった選手です。

しかし、ボールを持つと優しい一面もあります。緊張している若手やミスして落ち込んでいる味方に叱咤激励し、時には胸ぐらを掴んだりした後もゲームに上手く入れるように優先してパスを回してくれたりもします。

2人に共通している部分は、とにかく勝利のために行動すること。ホナスは献身的に、キーンは熱く！キーンはもっと紳士的なアクションが必要ですが・・・)真似はしなくてもいいですが、2人のこういった部分を各自少しずつでいいので身につけて欲しいと思います。

